

法律入門

Standard

法科大学院修了・新司法試験合格、
新しい合格の形を新しいスタイルで学ぶ

覚える学習から
書ける・解決できる実践的法律学習へ

業界最短

原孝至・基礎講座

東京本校

2015年3月開講

詳細はパンフレットをご請求ください。

辰巳 HP [http://www.tatsumi.co.jp/]



辰巳・基礎講座の特徴

① 演習人口 TOP の辰巳が、最終関門の司法試験に合格することから逆算して、あるべき基礎講座を開発しました。

司法試験で受験生から圧倒的に信頼されている辰巳のノウハウを結集した基礎講座は目的達成のための最高の手段となるはず。

② 講師は、法科大学院出身・新司法試験合格者です。しかも全7科目を一貫指導します。

同じ講師が一貫指導することで、効率的に吸収できます。

③ OUTPUT することから始まるインプットという新しい学習方法

最初に本試験で問われた事例問題を素材に何が問われているかを確認することから出発する新しいスタイルを採用。

④ 学習効率を高め、講義時間数をどこよりも最短に、しかも受講料はどこよりも低額です。

辰巳の基礎講座は、講師が教室で行う INPUT に特化した講義は業界最短の 201 時間（法律基本7科目で。法律実務基礎科目を含めても 225 時間）です。また、受講料は 1 年間で ¥348,500（通学部基準）です。割引や特典でさらに低額になります。

・通学部：LIVE+VB ・通信部：DVD ・WEBスクール

原孝至・基礎講座

法律基本科目

全67回/全201時間

■基本7科目 INPUT は最速・年内完成

刑 法 刑 訴 法 行 政 法
憲 法 民 法 商 法 民 訴 法

法律基本科目を学んだら
法律実務基礎科目をコンパクトに学習

法律実務基礎科目

全8回/全24時間

■年末 LIVE ないし年明け VTR

民事実務基礎
刑事実務基礎

答案力
養成答練
4月スタート
全20回

答案力
養成講義
4月スタート
全40回

講義進行方法（法律基本科目）

基本講義 3h×67回 → 復習講義（WEB） 各回30分

講義進行方法（法律実務基礎科目）

法律実務基礎科目講義 3h×8回 → 復習講義（WEB） 各回30分

●受講料（税込）

予備試験対策・法科大学院入試対策をバックした各種スキームもございます。詳しくはパンフレットをご請求ください。

一括 ¥348,500（通学） / ¥366,100（WEBスクール） / ¥383,500（DVD）

辰巳法律研究所
http://www.tatsumi.co.jp

東京本校 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-6 TEL 03-3360-3371（代表）
横浜本校 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル 4F TEL 045-410-0690（代表）
大阪本校 〒530-0051 大阪市北区太融寺町 5-13 東梅田パークビル 3F TEL 06-6311-0400（代表）
京都本校 〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路 上ル手洗水町 670 京都フクトクビル 6F TEL 075-254-8066（代表）
名古屋本校 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-23-3 第2アスタービル 4F TEL 052-588-3941（代表）
福岡本校 〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-17 西日本ビル 8F TEL 092-726-5040（代表）

予備試験

全国版
無料

2014 合格体験記

for Victory at 2015

2014 年予備試験合格者座談会を 2 本掲載

[大学学部在学中合格者]

[社会人出身合格者]

- 大学在学中 合格者
- 法科大学院在学中 合格者
- 社会人経験 合格者他

あなたの熱意・辰巳の誠意

辰巳法律研究所

Tokyo・Yokohama・Nagoya・Osaka・Kyoto・Fukuoka

提携校：Okayama・Takamatsu・Kagoshima

合格者の

声

予備試験短期合格のための
方法論！平成26年度合格者
中央大学法学部3年あべ まさとし
安部 雅俊さん

●辰巳受講歴：予備スタンダード論文答練【第2クール】・予備試験総括・予備試験論文公開模試・予備試験口述模試



1 予備試験を志した理由

私は初めロースクールへの進学を念頭に勉強を進めていました。ところが、もともと私の家庭に経済的な余裕がなく、かつ身近な先輩方が直近の予備試験に合格されるのを見て、自分も頑張れば予備試験ルートで経済的な負担を大幅に減らせることができるのではないかと思ったことが、予備試験を目指そうと思ったきっかけです。もともと、学部3年次の合格を当初から狙っていたわけではなく、とにかく3年次に短答試験を突破することを目標に掲げていました。例年の分布をみると短答試験に学部3年次に合格する人は全国的に少数であり（今年はかなり数が増えましたが（笑））、例え論文で落ちたとしても4年次に合格する確率が客観的に高いと考えたからです。また、ロースクール受験を考えた場合でも、国立上位ローに合格する人は（少なくとも私の周りでは）予備試験を学部1・2年次より目標にして勉強していた人が多く、必然的に目指していない人よりも各方面において予備試験を目指した勉強にプラスの側面があるということが予備試験受験の理由です。

2 辰巳を受験機関として選択した理由

先述の直近の予備試験に合格した先輩方が、いずれも辰巳を受験機関としており、その薦めを受けたことがきっかけです。予備試験も試験ですので、基本書等を読む自学でそれに対応することは限界があります。辰巳は様々な模試で受験者が多く、より正確に相対的な自分の位置を図ることができます。また、問題の難易度等も本試験に近いということを知っていたことが辰巳を選択した理由です。

3 試験対策

●短答対策

主に使用した教材としては**短答過去問パーフェクトおよび判例六法**です。短答パーフェクトは類似の分野ごとに**本試験・予備試験の過去問がまとめられており、解説も非常に詳細**です。このパーフェクトを短答本試験までに全科目5周して、間違えた肢や似た肢を判例六法に書きこみ、一緒に条文を素読するという作業を繰り返し行っていました。ベースとなる教材としては他に肢別本の新司法試験の肢も良いと思います。

短答試験は単純に勉強した量に比例して成績が伸びていきます。教材を1周まわしたからといって、新しい問題を求めているいろいろな教材に手を出すことはお薦めしません。過去問の肢を見てもわかるように、予備試験では同じような問題が角度を変えて繰り返し問われていますので、一度問いた問題は問われ方を変えられても答えられるよう対策しておくことが肝要です。もともと、自分の中ですでに十分わかっているものを何度も解くのは時間ももったいないので、わからない分野・何度やっても間違えてしまう分野を押さえるといった細かい効率面も工夫をしていました。直前期には**予備試験総括(全2回)を受験し、そこでの成績がよかったため本番も余裕をもって臨むことができました**。周りの様子を見ていても、総括の点数がよかった人はかなりの割合で短答を突破していたため、かなりの相関関係があるように思います。私自身も本番では200点弱の成績で突破することができました。論文式も視野に入れた勉強をするならば、法律のみで160点、内訳を民事9割、刑事7～8割、公法6割が一つの目安のように思います。

●論文対策

予備論文は受験する前年の冬頃から2月くら

いまでにかけて**予備スタンダード論文答練【第2クール】**で対策をしていました。予備試験の論文試験の形式は2～3科目を70分×科目数の時間内にまとめて解くという特殊な形式なので、**まずはこの1科目70分という形式を体で覚えることが必要だった**ためです。また、予備スタンダード論文答練【第2クール】での出題は本試験にも同分野の出題がなされたり、予備スタンダード論文答練【第2クール】での**成績が良ければ相対的な順位も知ることができたため、とても有意義**だったように思います。また、直前期は予備論文公開模試を受験することで本番同様の日程・形式で受験することができました。加えて**公開模試での成績が良かったため論文本試験に向けて弾みをつけることができ、論文合格への大きな後押し**となったように思います。

予備試験は一見論文式試験にさえ進めば20パーセントの確率で合格する試験であり、合格点も500点中（各科目50点10科目）の210点ほどであることから手が届くようにも思えます。しかしながら、実態はやはりほとんどの合格者がロースクール2年生・3年生であることより、学部生の合格は単純に20パーセントというわけではなく、学部生の合格率（徐々に上昇しているもの）かなり低いという現状です。そうすると、学部生はロー生に勉強時間や知識で勝つということは難しいため、とにかく私は基礎事項や法的三段論法といった当たり前のことをきちんと答案で表現できるよう努めました。これは7法については著名な演習書や辰巳のぶんせき本に記載されてある上位答案を何度も読み、実際に書いてみることによって身につけていきました。また、実務基礎科目についてはほとんど短答前に対策はしていなかったため、**実務基礎ハンドブックを使って過去問と答案例の分析を行い、要件事実や犯人性の書き方について勉強しました**。ハンドブックは実務上の手続きの流れ等が詳細にまとまっており、非常に使い勝手がよく、後述のように口述対策においても使用していました。予備試験の問題はすごく難しい問題が出題されるわけではなく、典型事例や判例から少しズラした出題がなされるようなので、対策は容易ではありません。もともと、やはり毎年基礎事項のきちんとした理解が問われておりますので、安易に暗記に走らず基本概念の定着を図ることを意識していました。また、「例え難しい問題が出ても結局相対評価だ！」と割り切っていたため、本番はよくわからない問題が出ても条文・趣旨に立ち返って記述をしたら、

それなりの評価が返ってきました。結果としては論文合格者中盤くらいの成績で突破することができました。

●口述対策

ほとんどの論文合格者と同じく、口述対策は民事執行・保全法をかじっただけなので、対策はほぼしていませんでした。そのため、**すぐに辰巳の口述模試を申し込み、口述試験の雰囲気や作法、身だしなみについて体感することができました**。口述試験はほとんどの受験生が合格するとはいうものの、出題範囲は膨大で、中には突っ込んだ質問もあるということだったので、論文合格発表後の2週間はかなり勉強したと思います。民事・刑事を通じて細かい手続きと法曹倫理、民事では執行・保全法が問われるため、私は先述の実務基礎ハンドブックを中心に条文素読や法曹会出版の実務本を使っていました。また、近時は細かい条文知識だけでなく論文で問われるような実体法手続法の論点も聞かれるため、趣旨規範ハンドブックを軽く確認する程度に勉強していました。

4 予備試験を目指す方へのメッセージ

予備試験は難しい試験ですが、決して突破できない鬼門というわけではありません。個々の知識はもちろん必要ですが、それよりも基礎基本の理解・条文趣旨に立ち返って考える思考力が重要です。予備校や様々な基本書はその法的な思考力を身につけるためのツールですので、安易に暗記に走らずに、なぜ・どうしてという考える勉強を試みてほしいと思います。時間が無い中あらゆる分野においてこういった勉強をすることは遠回りなようにも思えますが、典型事例から外した出題がなされる予備試験においては合格への近道といえますので、ぜひ実践してほしいと思います。

また、予備試験は精神的疲労がかなり大きく、試験中も何度も心が折れそうになりますが、決して諦めてはいけません。今年も実務科目において例年とは全く違う見たことのないような出題がなされ、私は試験中に何度も帰りたくなりました。しかしながら、どうせみんなできないのだからとにかく食らいつこうと該当分野の条文を引き、稚拙にあてはめた結果EF評価を回避し、大きな痛手とならずに済みました。みなさんもこういった局面にかならず遭遇すると思いますが、諦めずに合格を勝ち取ってほしいと思います。

合格者の
声予備試験は決して手の届かないよ
うな試験ではない平成 26 年度合格者
一橋大学法学部3年みくにや りょうた
三国谷 亮太さん

●辰巳受講歴: 予備試験論文公開模試・予備試験口述模試

1 予備試験を志した理由

私が予備試験を志した理由は受けることにメリットしか感じなかったからです。まず、ロースクールに行くべき期間分早く実務に出ることができ、より早く経験を積むことができるようになることが大きなメリットであると考えました。また、仮に予備試験に大学在学中に受からなくても、そのための勉強は、ロースクール入試、その後の司法試験に必ず生きてくると思ったので、これもまたメリットになると考えました。

2 辰巳を受験機関として選択した理由

辰巳の講義、答練、模試、教材等は、徹底的に過去問・学説状況・判例等が研究されており、また、講師に学者の方を招いたり、経験の深い実務家の方がいたり、講師陣も心強い布陣となっています。そこで、辰巳が受験に際して最適であると考え、辰巳を選びました。

3 試験対策

●短答対策

まず、一番の短答対策は、論文試験の勉強であると思います。今年の自分の短答の結果を振り返ると、やはり論文の勉強がほとんどできていなかった商法は20点を割っていました。論文の勉強が進むということは各科

目の全体像や、個別の論点や知識等がどの部分の話であるか等が頭に入ってくることを意味しますので、その方が莫大な短答知識を効率よく頭に入れることができるようになります。そこで、基本講座の後、短答→論文の順に力を入れるのではなく、論文→短答の順で力を入れることをお勧めします。

短答を集中してやる時期(私の場合は3月頃)には、上三法は辰巳の過去問パーフェクトをひたすらやっていました。過去問対策の書籍や講座等もありますが、まずは最低限過去問で出題された知識を8割以上正確に詰め込むことが必至です。下4法は特に1つ1つの細かい知識が重要だと思ったので、一問一答形式の問題集を使用しましたが、最終的にはやはり**過去問パーフェクトをやりました。**過去問の問題集は各社出していますが、解説の内容を考慮すると、辰巳の過去問パーフェクト一択だと思います。

●論文対策

私は少し特殊であると思いますが、こういった方法もあるんだ、と参考にしていただけると幸いです。

まず、私は、論文講座を終えた後、ひたすら学者の出した演習書(科目によっては旧司法試験過去問)を解きまくりました。この際、律儀に答案化することなく、ひたすら答案構

成に押さえて問題数を稼ぎました。そのおかげで論文受験時には各科目の論点や知識の処理方法、各分野の問題意識等をそれなりに頭に入れることができました。注意していただきたいのは、答案構成にとどめるというのは、そのまま答案化しろと知らない人に言われてもそこから答案が書けるくらいに答案構成をしっかりとやる必要があるということです。すなわち、基本的な論文作成法(法的三段論法や書き出し方、ナンバリングや論文の全体の流れ等)は人並みに押さえておかなければなりません。そこで、答練等で定期的に論文の書く感触や慣れをつかむ必要はあると思います。

まとめると、短期での合格方法の1つとして、最低限の論文の書き方を押さえたうえで、答案構成で問題を解きまくる、という方法が挙げられると思います。

●口述対策

口述対策は、まず辰巳の口述模試を受けろ、これに尽きると思います。辰巳の模試を受けた際に、試験官の先生が、口述の答え方や、出題可能性のある知識を指導してくれたおかげで、本番も試験官の方と大きな粗相もなく対話することができました。辰巳の口述模試さままです。

4 予備試験を目指す方へのメッセージ

まず言いたいのが、予備試験は決して手の届かないような試験ではないということです。私もまさか今年の段階で予備試験に合格できるとは思っていませんでした。私が本番に書いてきた答案は大したものではないですし、終わったときは、来年だな～って思っていました。それでも合格できたということは、受験生のレベルが、皆さんが思っている

ほど高いわけではないということです。今思うと、私は各科目最低限基本的なことが書けていたのかなと思います。それで受かってしまうのです。ですから、これから予備試験を目指す皆さんには、「自分なんかどうせ…」と思わず、合格を目指してほしいともいます。また、法律の勉強をしていて思うのは、勉強時間と同様に、勉強期間も必要であるということです。そのときにわからなくても、他の知識をつけて後々考えてみると簡単にわかる、という経験も何回もしました。そこで、予備試験に受かりたいと思ったら、できるだけ早く実行に移してほしいと思います。早く始めれば始めるだけ合格は近づくとおもいます。

合格者の

声

2年連続論文合格できたのは 基本をしっかり答案に示めせたから



平成 26 年度合格者
早稲田大学法学部卒業
東京大学法科大学院
既修コース2年

さとう ゆうすけ
佐藤 雄介さん

●辰巳受講歴:予備試験スタンダード短答オープン【第1クール】【第2クール】・予備スタンダード論文答練【第1クール】【第2クール】・予備試験総括・予備試験論文予想答練・予備論文公開模試・予備試験口述模試

1 予備試験を志した理由

私は、法曹志望であったため、早い段階からロースクール入試を受験することは決めていたのですが、勉強を開始するのが遅く本格的に勉強を開始したのは学部3年になってしばらくしてからでした。そのため、予備試験という試験の存在は知っていたのですが、難易度が高いということや狭き門であるということを知っていたため、予備試験を敬遠していました。しかし、どうせやるなら狭き門を突破してやろうという気持ちが強くなり、予備試験を意識するようになりました。ところが1回目の受験では口述試験で不合格になってしまったため、リベンジを果たすべく今年の予備試験の受験を決意しました。

2 辰巳を受験機関として選択した理由

学部在学中は受験機関に通学するという余裕がなかったため、講座を受講するといったことはほとんどなかったのですが、その代わり受験対策として辰巳の書籍を多く利用していたために、実際に答練を受けるならばやはり辰巳で受けようと考えていました。また、**受験生の多くが辰巳を利用している**ということを知っていたので**答練や模試で他の受験生と日ごろから意識して競争できる**というところにメリットを感じたので辰巳を選びました。

3 試験対策

●短答対策

予備試験に合格するためには短答式試験という第一関門を突破しなければなりません。私は**辰巳の肢別本シリーズ**を活用しました。辰巳の肢別本シリーズはほとんどの知識判例を網羅しているうえ、他の一問一答方式の短答参考書よりも解説が

詳しく、出典も詳細であるから知識の獲得、補充、復習にはもってこいでした。私はこの肢別本を何周もこなしました。10周以上回したと思います。しかしながら問題数が膨大であるため、何周か回すうちに自分が自信をもって解けるようになった問題にはチェックをつけ、その問題は飛ばすという方法をとっていました。それから実戦感覚をつかむにはやはり、本試験の過去問をとくということが役に立ちました。これには辰巳の短答過去問パーフェクトが役に立ちました。解説が親切丁寧で、インプットしやすいのでお勧めです。

また、**予備試験スタンダード短答オープン【第1クール】【第2クール】を受講し、効率よく演習をこなしました**。この答練では本番できかれそうな知識や意外な知識の穴を再確認するのに最適でした。また、**解説や復習シートといった資料が充実しているので本番が近づくにつれ、この答練の復習がしやすくなりましたが、それが非常に効率がよく短時間で知識を確認できる**のでとてもよかったです。本番ではかなり上位の成績をとることができました。

●論文対策

論文式試験の対策ですが、2年連続論文式試験に合格できたのは基本的事項をしっかりと答案に示すことができたからだと思います。こういった**基本的な知識を答案にしっかりと表すことができたのは、辰巳の予備スタンダード論文答練【第1クール】【第2クール】を受講したこと**によると思います。予備スタンダード論文答練【第1クール】【第2クール】は毎回本番の難易度に近く、かつ現場で考えさせる設問もある良問ばかりで**予備試験論文に向けた訓練に最適**でした。また受講者もおおく、その中で本番に近い緊張感と本番と同様の制限時間で答案を書くので答案をかきつづける体力や気力を養うのに役立ちました。その上解説レジュメや解説講義が充実しており知識の拡充や復習

のいい機会になりました。この答練をペースメーカーに勉強してきたので勉強計画に困ることも、途中でなかだるみすることもありませんでした。直前期には論文予想答練と論文公開模試を受けました。予備試験論文予想答練では直前の知識の再確認に役立ちました。また本番の難易度に限りなく近いので本番前の慣らしにちょうど良かったです。

予備試験論文公開模試は受験者数が多く受験生の中で自分がどのあたりにいるのか把握できるため、ここでよい成績をとれば勢いがつきますし、悪くても本番までの間にどこを直せばいいのかわかるので**論文受験生なら受けるべき模試だと思いました**。実際受けてみて**本番に向けて非常に勢いづいたのでよかったです**。また、日頃から、辰巳の出版している司法試験の合格者の再現答案集を読んで、上位答案の書き方についてのイメージを膨らませていたことが役に立ったと思います。

●口述対策

私は昨年度の口述試験で不合格になったため、口述試験にトラウマを抱いていました。そこで論文式試験受験後から、まずは昨年度の敗因分析からはじめました。以前の自分には圧倒的に実務科目の知識、とくに要件事実と民訴の証拠等の知識がかけていたことが分かったので、論文後は要件事実の勉強として辰巳の実務基礎ハンドブック、紛争類型別、問研、要件事実30講をいやというほど回しました。同時に民訴・刑訴の択一も並行して繰り返しました。さらには夏休みの期間を利用して友人と口述対策のためのゼミを組んで、旧司法試験口述過去問等の資料をかき集め、これを利用して実際に主査役、副査役、受験生役に分かれて口述の実戦訓練をしました。これによって民事実体法・手続法の知識、刑事実体法・手続法の知識を一気に復習できたうえ足りない知識も補うことができました。旧試験で問われ続けてきた知識は予備の口述でも聞かれていることが多かったためこれらは非常に有効だったと思います。そして**最後の総仕上げとして論文合格発表後の辰巳の予備試験口述模試を受け、そこで適切なアドバイスをもらうことで、今年度はいけそうな気がすると自信を持つことができました**。さらに辰巳の模試は2人1組でやるという形式をとっているため一度の模試で2回分の問題に触れることができるため他の予備校の模試と比べて大変お得感がありました。

4 メッセージアドバイス

2度の予備試験を受験し、2度口述まで行くことができたのは決して楽な道ではありませんでした。しかしながら、同時に予備試験は必ずしも高い壁ではないということも考えました。重要になってくるのはあくまで基本的な事項についての知識、それから基本的な条文をうまく引き出し使うことだと思います。これができれば予備試験は困難な試験ではないと思います。そしてこういった基本的な能力を身に着けることは決して難しくないとはいえません。

ただ、私が予備試験について思うのは、一番怖いのは短答式試験だということです。短答式こそ覚える知識が多く、また本番の難易度が掴みづらく実力のある受験生も運が悪ければ落ちてしまう試験だと思います。論文までいけばかならず受かるだろうと思える実力のある人も不運なことに短答で躓いてしまうケースもあります。予備試験の第一関門である短答を突破することは重要なことです。上位で受かれば勢いも付きます。まずは一つ秘湯の関門を乗り越えていく姿勢が大事です。

また、口述も不合格になった経験のある身としては口述試験の恐怖について一言触れておかなければならないと思います。口述試験は合格率こそ90%を超えますが、受験生はみな論文を突破してきた猛者ばかりです。その中で残りの不合格10%に入らないことが確実だとは絶対に言えないと思います。対策を怠り生半可な気持ちで挑めば確実に落ちてしまいます。そして、ここまでいって落ちた時のモチベーションの下がり方といったら半端じゃないです。なので、論文受験後から論文にはもしかしたらとおっていないかもしれないとは思っても、口述に向けて実務科目を意識した勉強をすることが大事だと思います。

いろいろ行ってきましたが予備試験はいい試験です。自分の実力が試せますし、また受験するだけでかなりの経験値が得られます。予備試験を受験することにデメリットはありません。自分を磨くという意味でも予備試験を目指すことはいいことだと思います。私の体験記や際限がすこしでも皆様の役に立てればと思います。

合格者の
声

「正しい方向」に向かった努力が鍵

平成 26 年度合格者
中央大学法学部卒業
東京大学法科大学院
既修コース2年

しまだ じゅんや
島田 潤也さん

●辰巳受講歴：予備試験総括・予備論文公開模試・予備試験口述模試



1 予備試験を志した理由

私が大学2年の時に予備試験制度が始まり、当初は旧司以上の難易度になるとの噂もあったので予備試験ルートは目指していませんでした。しかし、蓋を開けてみると周知のとおり在学中合格者がかなりの割合を占めることになりました。

そこで、ロースクールに進学することが金銭的な負担となること、予備試験合格者が就職や任官・任検においてもロースクール出身者よりもかなり優遇されていることから、このままロースクールに行くことはかなりマズイとの危機感も感じ始め本気で合格に向けた勉強を始めました。

2 辰巳を受験機関として選択した理由

司法試験予備校はいくつかありますが、何を以て予備校を選ぶべきかと言えばそれは母体数だと思います。予備試験は相対試験ですから、何よりも自分が受験生の中で何番なのかを把握することが極めて重要であるといえます。**辰巳の模試の受験者数は全予備校中でも圧倒的に多く、自分の位置が相対的に分かり何を今学習すべきなのが明白に分かります。**

もちろん、**模試のクオリティについても辰巳は予備校の答練の中では最も本番に近く、的中率も他の予備校と比べ頭1つ飛び抜けています。**特に採点シートは素晴らしい出来栄です。他の予備校の答練ではせいぜい論点毎にざっくりとした点数が書いてあるくらいでこれでは採点者による恣意が過度に働いてしまい模試として不適切なことが多いです。一方、**辰巳は、詳細に得点項目を設けており自分がどうしてこの点数なのかが明確に分かりますし改善点も一目瞭然**です。

以上の2点から受験機関として辰巳を選択するのは至極当然のことであると思います。

3 試験対策

●短答対策

基本的に短答は論文と比べ自学自習の重要性が高い試験ですので、まずは自分で新司法試験および予備試験の過去問の問題集を回す必要があります。刑法以外の科目は肢別本、刑法は短答パーフェクトを用いて学習しました。

私は学部3年次に160点で短答試験に落ちました。どうして合格点に辿りつかなかったのか考えたところ、問題の肢のうち、どれも中途半端にしか分かっていないことに気が付きました。民事系及び刑事系の短答試験の肢は平均して1問あたり5肢程度ありますが、実は2肢分かればほとんどの問題は答えの選択肢を導き出すことができます。したがって、重箱の隅のような肢など分からなくても大体解答することは可能です。そこで、本番で要求される知識は広く浅い知識ではなく、基礎的な条文・判例に対する盤石な理解であると考えました。そこで、どのような問題集を使うべきかについてですが、多肢型の問題集は本番と同じ形式で演習できるというメリットがある一方で1つ1つの肢を蔑ろにしがちになります。大学2年～3年にかけてはこのような問題集を使っていたことから、どの科目も万遍なく薄い不正確な知識しか身につけなかったのだと思います。

それに対して肢別本は1つ1つの肢に必要な十分な解説があり丁寧に考えていくことができます。重要な肢は聞き方を変えて何度も登場してきますし、単純暗記ではなく理解を伴った暗記ができるよう工夫がこらしているように思いました。私は各科目3週程度回して正答率が9割前後に達するまで肢別本を使いました。結果、全ての法律科目で7割以上の得点率を出すことができました。

もっとも、刑法だけは肢の相互の関連性が高く

複数の肢を同時に見ることに意味がある問題が多く出題されるため、過去問パーフェクトを用いて学習しました。この際には1つ1つの肢を丁寧に見ていくことを意識して学習しました。

一般教養については、私は元々理系選択であったため数学・物理・化学を中心に選択しました。問題を見れば明らかですが、予備試験の物理や化学はかなり難易度が低く文系科目と比べて得点しやすいです。今年もほとんど勉強することなく50点弱の得点は取れました。理系であった方は短答直前に高校時代の教科書を一読しておくことをお勧めします。

●論文対策

論文には4年次に一度不合格になっており、昨年度の成績通知表を見たところ主観と客観に大きな隔りがあることに気が付きました。そこで、何を書けば点数が付くのかを自己分析したところ、論点を落としても条文起点の思考が示せた科目には合格点が付いていたことに気が付きました。そこで、短答の学習をする際に○×の選択する根拠となる条文が何であるのか、論点は一体どの条文のどの文言との関連で生じているのかを強く意識する学習をするように軌道を変えました。結果として論文を書く際に、条文と問題文の事実に喰らいつく姿勢を滋養することができたと思います。

論文の問題集はまずは辰巳のえんしゅう本から入り初歩的な論点を押さえました。えんしゅう本は簡単過ぎると思っている学生が多いと思いますが、全ての問題に対してそれ相当の答案を書くためにはかなりの学習量が必要となります。もっとも、ロースクール入試と違い、さすがにえんしゅう本だけで予備試験の論文試験を解くのはかなりキツイものがあります。私は旧司法試験や学者の先生が書いたような問題集を何度も解いて標準レベルの知識は身につけました（特に平成10年度以降の旧司民法は、少なくとも10回は解いたと思います。）。

アウトプットには辰巳の予備試験論文公開模試を用いました。どの科目もクオリティが高く本番さながらの難易度であり、結果として辰巳の採点の結果と本番の採点の結果はかなり近い点数が付きましました。本番でも未知の論点を問うような問題ばかりが出題されましたが、小論文になってしまわないように、ひたすら条文に事実をあてはめる、条文の文言が良く分からなかったら趣旨から解釈する、ということだけを繰り返したところ、結果として

沈んだ科目はほとんどありませんでした（刑事実務基礎を除く。）。

●口述試験対策

論文の結果が出てから学習を始めましたので、口述試験までは最低でも1日12時間は勉強したと思います。短答や論文にそれなりの順位で合格しているのであれば実は口述のために増やさなければならない知識というのはさほど多くなく、民事執行・保全の概略、刑事手続、簡単な法曹倫理で足りる。むしろ大変なのは口述という今まで経験したことのない試験方式に慣れることです。

私は**各種予備校の口述模試を受講しましたが、口述の場面でも辰巳の模試はずば抜けたクオリティを誇っていました。**特に、刑事系における新庄先生は本番と何ら変わらない雰囲気醸し出していらっしゃる（というよりも本番以上の緊張感や難易度でした。）、口述対策は辰巳の予備試験口述模試が一番です。

自学としては、いわゆる「刑事第一審手続」や大島先生の「民事実務の基礎」を用いて学習しました。また、辰巳のハイローヤーのバックナンバーを用いて旧司時代の口述模試も読み込みました。

4 予備試験を目指す方へのメッセージ

予備試験に合格するためには、並大抵の勉強量では足りません。本気で合格したいのであれば、サークルやバイトはほどほどに、学生の本分は勉強であることを常に忘れず毎日学習することを心掛けてください（私はサークル活動には没頭していましたが…）。

また、量とともに大事なことは方向性です。私はいくら勉強しても成果が出せない人をこれまで何人も見てきました。彼らに共通する点はどんな努力も報われると思っている点です。しかし、残念ながら努力は正しい方向で行わなければ何もしていないのと何も変わりません。そして、法律学習は正しい方向で努力をすることがとても難しい科目です。私も何度もぶれましたが、その都度、一緒に勉強している仲間に修正して貰いながら予備試験合格まで至ることができました。

どうか一人で勉強するのではなく、多くの仲間とともに切磋琢磨しながら勉強してください。

合格者の
声**敗因分析とその改善が
合格への道**平成 26 年度合格者
中央大学法学部卒業
私立大学法科大学院
既修コース修了**M・Hさん**

●辰巳受講歴：予備試験総括・予備試験口述模試

**1. 予備試験を志した理由**

長い間、旧司法試験を受けてきました。何度かかなり惜しいところまで行きましたが、結局合格することができませんでした。そこで、ロースクールに行き新司法試験も2度受けましたが、2回目の時は、あと択一1問できていれば合格というところで落ちてしまい、失権してしまいました。その後、一時司法書士試験の方に転向していましたが、司法書士試験もかなり努力しないと受かるのは難しいこと、同じく努力するなら弁護士になれる方が仕事内容に制限がなく（刑事事件など）いいのではないかと等々の理由で、昨年より予備試験の方に戻ってきました。

2 辰巳を受験期間として選択した理由

辰巳には、旧司のころからお世話になっていたの、その信頼感から、新司法試験、司法書士試験を通じてずっと利用させていただいていました。

3 試験対策**●短答対策**

昨年、初めて予備試験を受けるにあたり一番心配だったのが、一般教養です。学部生など若い方と異なり、大学受験したのは遙か昔の話なので、日本史、世界史、地理、文学史、をはじめ、公務員試験用の参考書も購入し、経済学、社会学、政治学もやりました。英語は最初からやるつもりがなかったので、問題数確保のために化学や地学に関してもセンター試験の問題をやるなどしておきました。その結果、昨年は短答試験で200点以上取ることができ順位も100番台でした。しかし、これは後の論文試験のことを考えると結果として対策のやりすぎでした。そこまで、一般教養に力を注ぐのは得策ではありませんでした。そ

こで、今年は、短答対策を極力減らし論文対策に充てることにしました。順位は大幅に落としてしまいましたが、司法試験と異なり、点数が加算されるわけではないので、確実に受かることができれば問題ないと考えていました。

短答試験に関しては、法律科目だけで160点くらいをコンスタントに取れるようになるのがまずは一応の目安なのかなと思います。もし、これに達していないと自分で感じた時は、時間をかけて短答対策をしていました。ただ、これは最低限のラインで、目標ラインはもっと高めに設定しています。対策について理想をいえば、論文対策とうまくリンクしていければいいと考えていたのですが、実際はうまくいかず、各々独立した形になってしまいました。**勉強の中心は、科目によっても異なりますが、基本的には条文素読と判例です。その際には、辰巳の「条文・判例本」の読み込みは極めて有効です。**これらでインプットをしっかり行ったうえで、辰巳の「短答肢別本」できちんとインプットできているかを確認し、辰巳の「短答詳解 [単年版]」などで予備試験・司法試験かわらず過去問を解きました。今年は、民事系はよかったのですが、刑事系は少し難しくなっているまいちの出来でした。来年は、司法試験の短答試験が3科目になるため、難化が予想されます。十分な対策が必要となるのではないのでしょうか。

●論文対策

昨年は、ほとんどの科目でCかDでした。結果を見た瞬間、これは一番良くない落ち方だなあと思いました。なぜなら、私の答案スタイルでは知識の多寡にかかわらず「優秀」はおろか「良好」にすらならないことを意味するからです。目指すべき方向が間違っていたので、これは早急に方向転換しなければならぬと感じました。正確なところはわかりませんが、合格するにはA評価が3

つくらいは必要であると思われたので、A評価となるための必要十分条件を探ること、そのラインと自分の答案とのギャップを把握し、それを埋めるための対策をたて、実行することをこの1年の目標としました。そのために使用したのが、**辰巳の予備試験の「A答案再現&ぶんせき本」と司法試験の「論文答案再現集」**です。私の論文試験の中心は過去問なので、これらの本に収録されている極めて優秀な再現答案の分析は必須ともいえるものでした。私は、地方に住む社会人なので論文答練は受講できませんでしたが（通信では自分の性格から怠けてしまう）、論文は自力で論文を書いて、それを他人に見てもらうことが一番力がつくので、受講できるなら受講するのが良いと思います。

その結果、この1年で、A評価0個からA評価5個で合格することができました。E・Fもありませんでした。「**論文答案再現集**」は私にとって**神本**といっていいでしょう。やり方次第では、**地方のベテラン受験生でもうまく成績を上げることができるみたい**です。ちなみに、旧試の過去問はあまりやっていません。ここは、他の合格者の方と違うところかもしれません。理由はいろいろありますが、私が持っている旧試の論文過去問集の参考答案の出来が自分の目指す方向とはかけ離れていたの、その答案を目にしてしまうことによって、自分の答案のスタイルがおかしな方向にいかないようにする必要があったと考えることが主な理由です。問題自体の検討は平成15年くらいから以降についてはやる意味は十分にあるとは思いますが、ただ、私個人としては、新司法試験の問題を検討することの方がはるかに重要であると考えていました。

予備試験には、ロースクール生も多数参加していることから、旧司法試験にはなかった行政法や実務科目もレベルは高くなっています。特に実務科目は勉強がやりにくいですが、試験結果に与える影響はかなりあります。悪くてもC評価以上を取れるようにする必要もあるかもしれません。ちなみに、私はB評価でした。

●口述対策

この試験に関しては、過去の合格者の方の多くが一番精神的にきついとおっしゃっていますが、まさにその通りだと思います。論文に合格していたことがわかってから辰巳の予備試験口述模試に申し込みました。辰巳の予備試験口述模試を申し込んだ理由は、まず日程が早く合格後すぐに行われることにあります。これは、早期に自分の弱

点を把握し、残り2週間を有効に使える点でいいと思います。また、**2人1組で行われるので、他の受験生のレベルがわかるという点でものすごく参考になります**。実際、自分のパートナーの方は若く極めて優秀な方で自分のダメさ加減にショックを受けました。特に、**社会人の方は受けておくことを強くお勧めします**。学部生やロースクー生は合格者同士で問題を出し合ったりして練習できますが、**社会人で仲間もない状況ではそれもできずかなり不利となるからです**。その後、辰巳の「法律実務基礎科目ハンドブック1民事実務基礎」と「法律実務基礎科目ハンドブック2刑事実務基礎」を中心に、「条文・判例本」の民法・民訴・刑法・刑訴の読み込みをし、「新問題研究要件事実」「紛争類型別の要件事実」（法曹会）を読み、民事執行・保全、法曹倫理についても適宜勉強しました。

4. 予備試験を目指す方へのメッセージ

私のような地方に住む社会人で、辰巳をはじめとする予備校を受講することが困難で、司法試験受験に関して失敗ばかりでセンス0のものでも合格することができたのですから、あきらめずに挑戦し続けることで道は開かれると思います。論文試験の会場では私より年上の方が数多く受験なさっていることに素直に感動していました。ぜひ合格して司法試験への切符を手にしていただきたいと思います。

当体験記の続きは、
資料をご請求のうえ、ご覧ください。

<http://www.tatsumi.co.jp/info/shiryō.php#yobi>